

和歌山下津港港湾計画資料

— 軽易な変更 —

平成12年5月

和歌山下津港港湾管理者

目 次

1. 変更理由	1
2. 施設計画に関する資料	2
2-1 小型船だまり計画	2
2-2 土地造成及び土地利用計画	4
3. 資金計画	5
4. 新旧対象図	5
5. 環境への影響と評価	6
6. 関係機関との調整等	7

1. 変更理由

- (1) 遊漁船のための施設の不足に対処するため、内港地区において、小型船だまり計画を変更し、併せて土地造成及び土地利用計画を変更する。

2. 施設計画に関する資料

2-1 小型船だまり計画

(1) 施設計画

現在、和歌山下津港には小型船だまりが不足しており、港湾活動に種々の障害が生じている。そのため、港湾活動の円滑化、港内航行の安全に資するため、内港地区において遊漁船のための小型船だまりを以下のとおり計画する。

表2-1-1 小型船だまり計画の概要

地区名	施設種類	内容	対象船	備考
内港地区	泊地	(-4m)2.3ha	作業船 30隻 遊漁船 114隻	既定
		(-3m)1.7ha		変更
	物揚場	(-4m)200m		既定
		(-3m)180m		変更
	ふ頭用地	0.9ha		変更
小型さん橋	5基	新規		

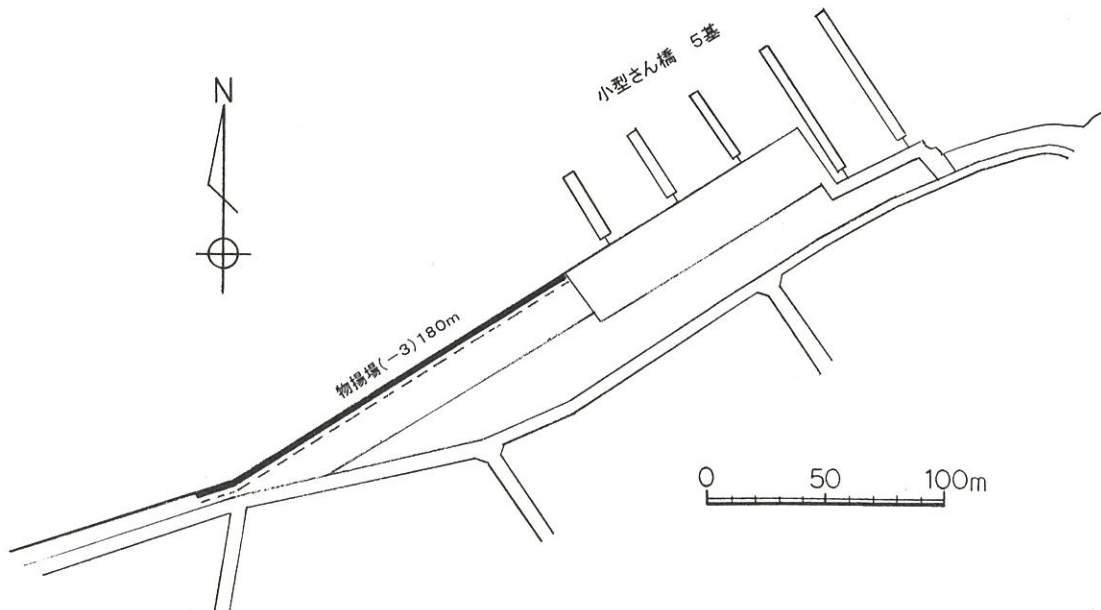


図2-1-1 内港地区小型船だまり計画図

(2) 静穏度の目標

静穏度の目標は表 2-1-2 のとおりである。

表 2-1-2 静穏度の目標

	係留施設前面波高 ($H_{1/3}$)	稼働率
通常時	0.3m以下	97.5%以下
異常時	0.5m以下	—

(3) 静穏度の検討

静穏度の検討位置を図 2-1-2 に示す。

表 2-1-3、表 2-1-4 に示すとおり、常時、異常時ともに静穏度の目標値を満足する。

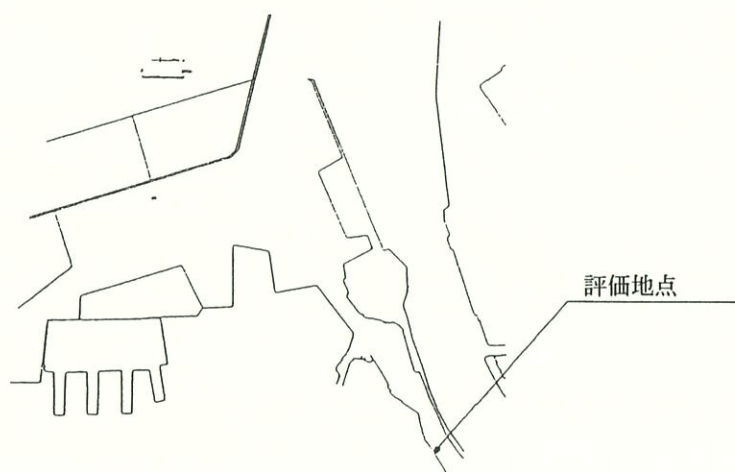


図 2-1-2 静穏度検討位置図

表 2-1-3 通常時における静穏度

波向き	荷役限界波高0.3m以上の出現率(%)
SSW	0.1
SW	0.5
WSW	0.0
W	0.1
WNW	0.0
NW	0.0
稼働率(%)	99.3

表 2-1-4 異常時における静穏度

波向き	波高(m)	Kd	H(m)
SW	6.57	<0.05	0.33
WSW	5.98	<0.05	0.30
W	4.50	<0.05	0.23
WNW	3.85	<0.05	0.19

2-2 土地造成及び土地利用計画

(1) 概要

内港地区における土地造成及び土地利用計画の概要は表2-2-1のとおりである。

表2-2-1 土地造成及び土地利用計画 (単位: ha)

地区名	ふ頭用地	港湾関連 用地	都市機能 用地	緑地	合計
内港地区	(0.4) 2.3	2.8	0.7	(0.2) 0.8	(0.6) 6.6

(注) 1. () は、土地造成を伴う土地利用計画で内数である。

既定計画

(単位: ha)

地区名	ふ頭用地	港湾関連 用地	都市機能 用地	緑地	合計
内港地区	(0.6) 2.4	2.8	(0.3) 1.1	(0.2) 0.8	(1.1) 7.1

(注) 1. () は、土地造成を伴う土地利用計画で内数である。

(2) 今回計画における土地利用計画

小型船だまり計画に対応し、土地利用を表2-2-2のとおり計画する。

表2-2-2 土地利用計画

用途	面積	施設概要
ふ頭用地	0.9 ha	エプロン、駐車場、植栽等

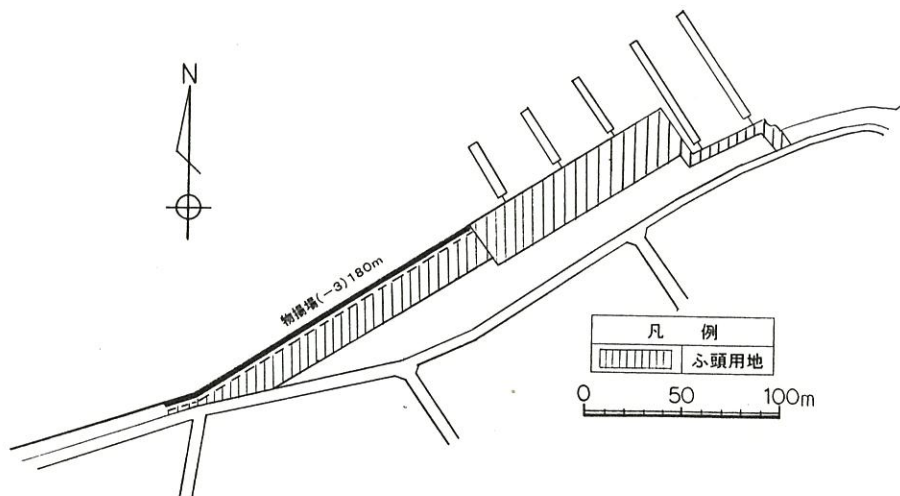
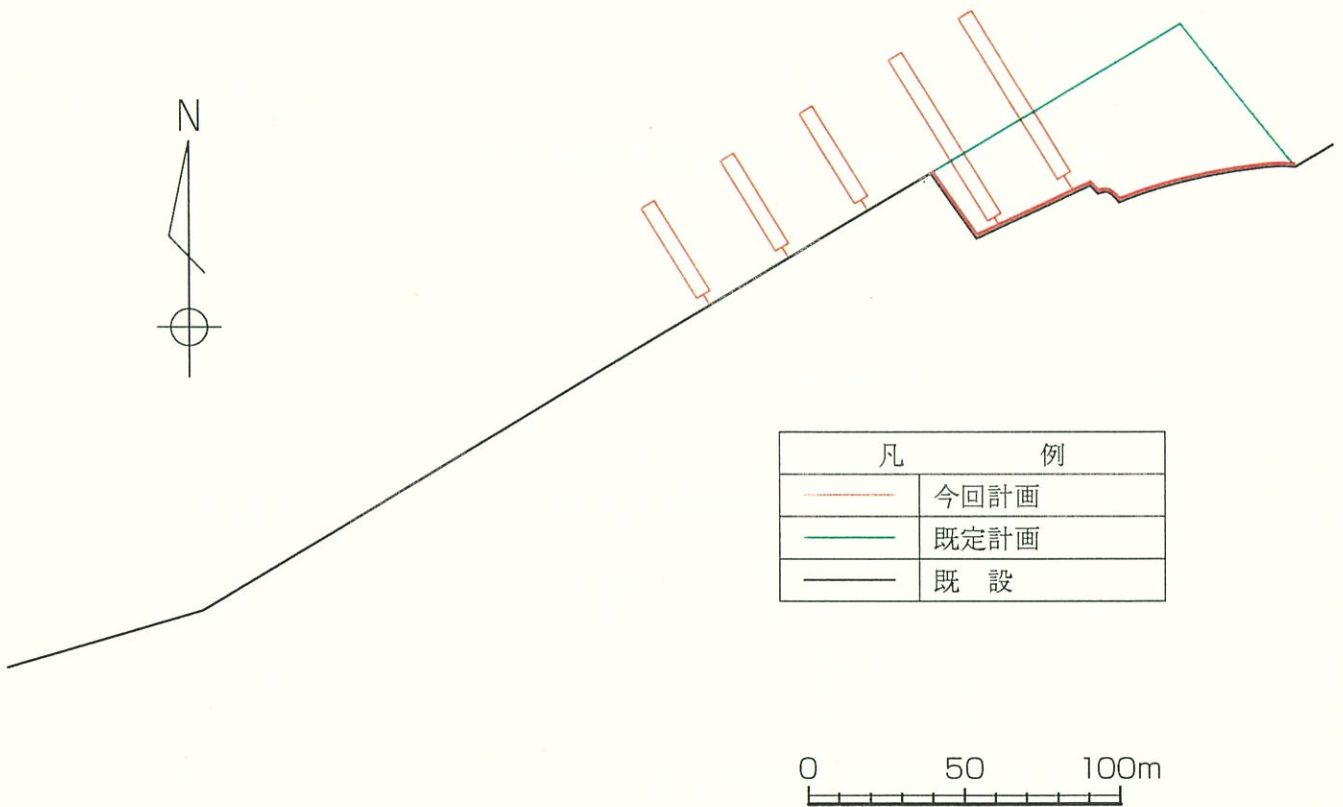


図2-2-1 土地利用計画図

3. 資金計画

地区名	種別	施設区分	施設名	単位	数量	事業費(百万円)
内港地区	公共	係留施設	小型さん橋	基	5	
		その他施設	ふ頭用地	ha	0.3	
計						270

4. 新旧対象図



5. 環境への影響と評価

(1) 大気質・潮流・水質・底質・生態系、景観等への影響と評価

今回計画により新たに生じる汚染負荷源がなく、地形変化も小さいことから、今回計画による大気質・潮流・水質・底質・生態系・景観等への影響は軽微であると考えられる。

(2) 騒音・振動による影響と評価

今回計画により新たに発生する交通量は少なく、騒音・振動による影響は軽微であると考えられる。

(3) 漁業への影響と評価

潮流、水質、底質への影響は軽微であることから、周辺漁業に与える影響は軽微であると考えられる。

以上の検討から、今回計画による環境への影響は軽微であると考えられる。

6. 関係機関との調整等

別添資料参照

和歌山県地方港湾審議会名簿

平成12年4月1日現在

(敬称略、順不同)

委員の種類	氏名	職名	
第 1 号	岩 垣 雄 一	京都大学名誉教授	
	岡 本 保	元県議会議長	
	小 池 洋 一	和歌山大学名誉教授	
	鮫 島 泰 佑	(社)日本港湾協会理事	
	大 津 正 和	和歌山大学経済学部助教授	
	樋 口 徹	新政治経済研究所所長	
	養 父 志乃夫	和歌山大学システム工学部教授	
	中 田 尚 子	和歌山信愛女子短期大学教授	
	吉 川 和 広	関西大学教授	
第 2 号	田 廣 芳 弘	和歌山県海運組合理事長	
	小 野 雄 作	和歌山港運協会会長	
	小 池 康 雄	和歌山商工会議所副会頭	
	小 林 謙 三	和歌山外材輸入協会会長	
	井 波 稔	全日本海員組合大阪支部長	
	平 石 正 實	和歌山下津水先区水先人会会長	
	田 端 淳 二	御坊商工会議所会頭	
	中 川 藤 吉	日高木材協同組合理事長	
	藤 原 勝 行	和歌山県港湾協会副会長	
	嶋 洋 一	和歌山県漁業協同組合連合会代表理事会長	
	坂 本 敏 夫	和歌山港運管協会会長	
	第 3 号	旅 田 卓 宗	和歌山市長
		石 田 真 敏	海南市長
玉 置 三 夫		有田市長	
柏 木 征 夫		御坊市長	
橋 爪 麟 兒		下津市長	
成 瀬 峯 次		美浜町長	
第 4 号	木 下 秀 男	和歌山県議会議員	
	宇治田 栄 蔵	和歌山県議会議員	
	尾 崎 要 二	和歌山県議会議員	
	神 出 政 巳	和歌山県議会議員	
	中 村 裕 一	和歌山県議会議員	
	永 井 佑 治	和歌山県議会議員	
第 5 号	花 角 和 男	大阪税関長	
	金 澤 悟	近畿運輸局長	
	金 澤 寛	第三港湾建設局長	
	宇都宮 宣 郎	田辺海上保安部長	
	比 良 和 年	和歌山下津港長	
	藤 芳 素 生	近畿地方建設局長	
第 6 号	高 瀬 芳 彦	和歌山県副知事	